

2015年3月期 第1四半期 決算概要

テルモ株式会社
上席執行役員 経営企画室長

羽田野 彰士

2014年8月6日

決算ハイライト

全社

- 薬価・公定価改定の影響を吸収し、増収増益を確保
- 営業利益は21%増、為替を除いても二桁増益

心臓血管

- 公定価改定により国内減収も、海外はカテーテルを中心に伸長
- 新DESのUltimasterは、予定通り6月より欧州から販売開始

ホスピタル

- 消費税増税の反動減や薬価・公定価改定の影響がある中、基盤医療器の原価改善により利益率維持

血液

- 厳しい市場環境も、治療アフェシス等の伸長により、増収増益を確保

增收增益、営業利益21%増

(億円)

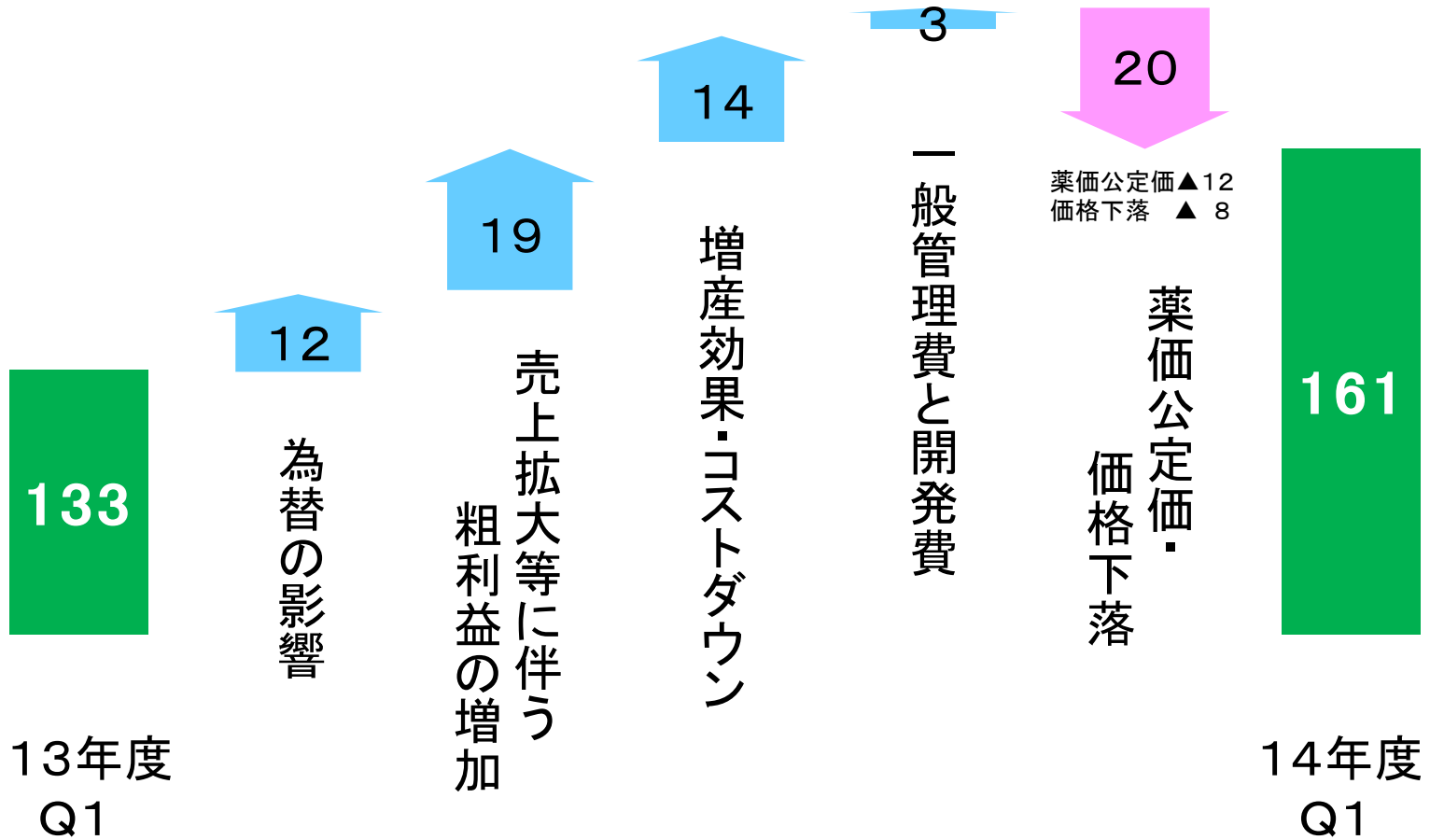
	13年度Q1	14年度Q1	増減率	為替除く
売上高	1,111	1,149	+3%	+1%
粗利益	570 (51.3%)	607 (52.8%)	+7%	+2%
一般管理費	361 (32.4%)	379 (33.0%)	+5%	
開発費	76 (6.9%)	67 (5.8%)	-12%	
営業利益	133 (12.0%)	161 (14.0%)	+21%	+12%
(のれん等償却除く)	173 (15.6%)	202 (17.6%)	+17%	+9%
経常利益	129 (11.6%)	144 (12.6%)	+12%	
純利益	90 (8.1%)	84 (7.3%)	-6%	

期中平均レート

USD	99円	102円
EUR	129円	140円

営業利益増減分析

(億円)

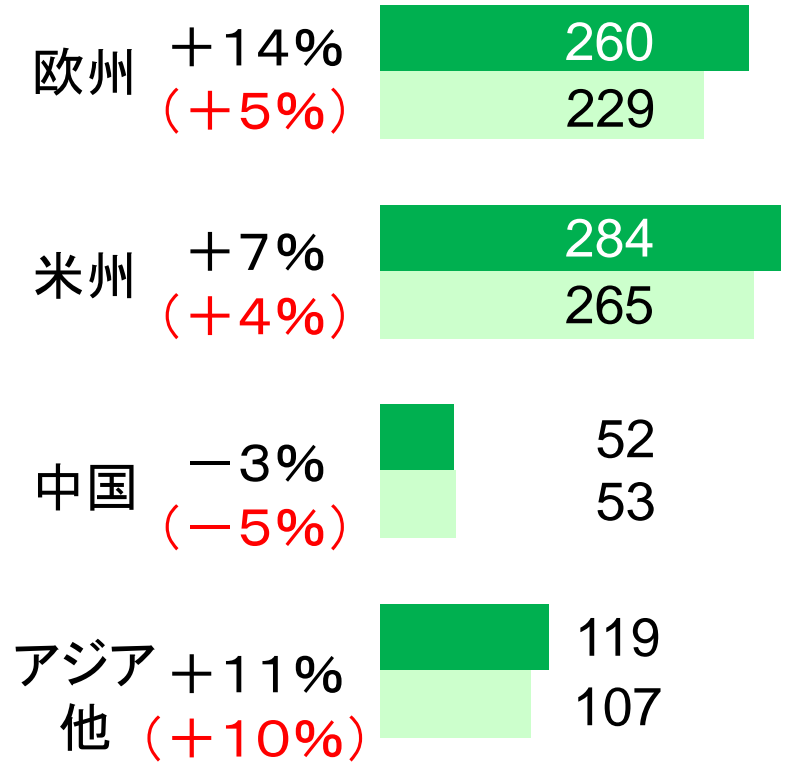
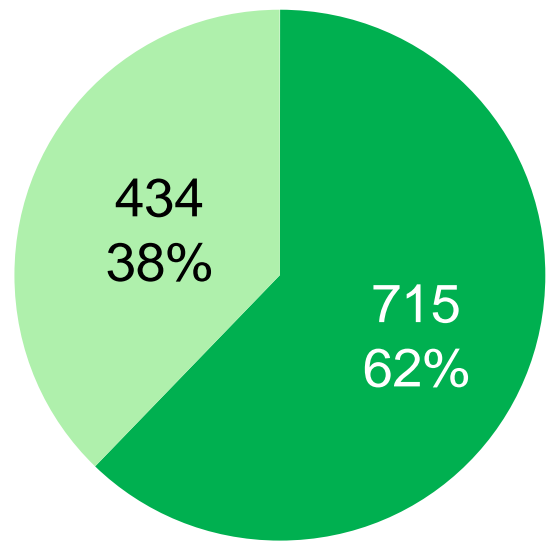
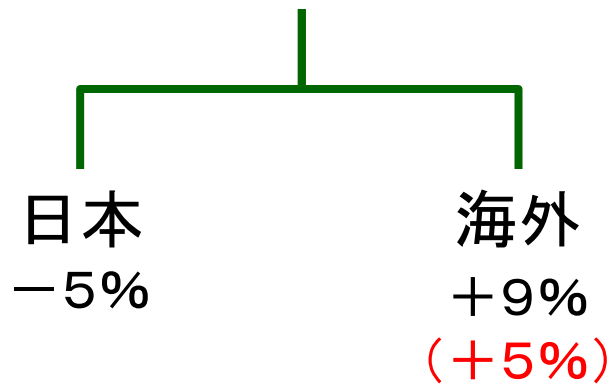


地域別売上高

(億円)

連結: +3% (+1%)

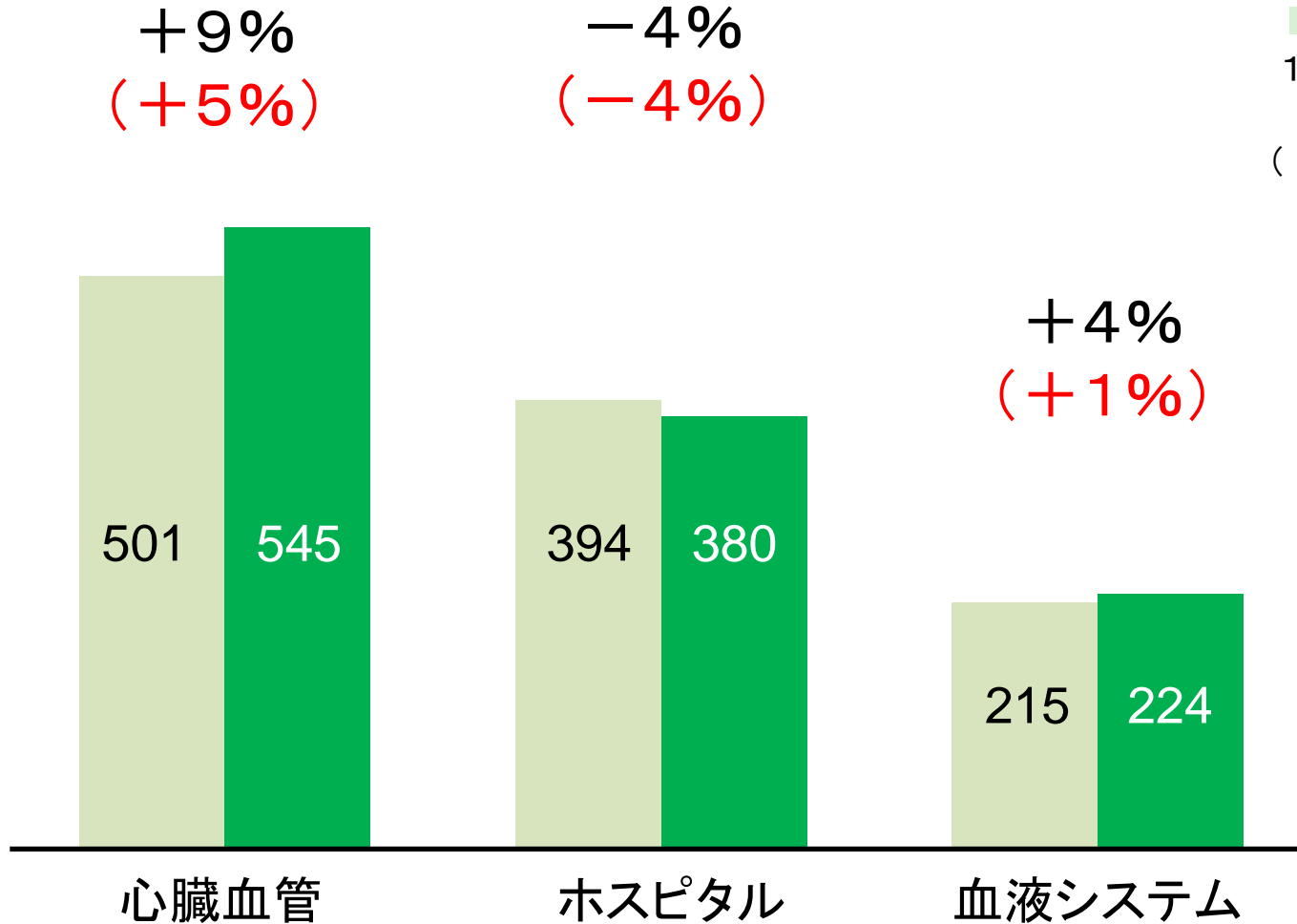
13年度 Q1 14年度 Q1
()内は為替影響除く



カンパニー別売上高

(億円)

13年度 Q1 14年度 Q1
()内は為替影響除く



カンパニー別事業利益

(億円)

		13年度 Q1	14年度 Q1	増減率	為替除く
事業利益	心臓血管	93 (19%)	114 (21%)	+23%	+8%
	ホスピタル	48 (12%)	46 (12%)	-4%	-2%
	血液システム	41 (19%)	42 (19%)	+3%	+1%
その他 ※		-8	0	-	-
営業利益 (のれん等償却除く)		173 (16%)	202 (18%)	+17%	+9%

※その他：カンパニーに直接関連しない項目

心臓血管カンパニー：増収増益を達成

(億円)

	13年度 Q1	14年度 Q1	増減率	為替除く
売上高	501	545	+9%	+5%
事業利益 (率)	93 (19%)	114 (21%)	+23%	+8%

- 海外カテーテルの売上伸長 +28億
- ニューロでは新製品(ステント、バルーン)を軸にグローバルで売上拡大+9億
- TCVS社の品質システム改善費用が前年同期比 5億減
- 公定価改定の影響 ▲10億
- 予定通り新DES、Ultimasterを欧州からローンチ

ホスピタルカンパニー：売上減も利益率を維持

(億円)

	13年度 Q1	14年度 Q1	増減率	為替除く
売上高	394	380	-4%	-4%
事業利益 (率)	48 (12%)	46 (12%)	-4%	-2%

- 消費税増税の反動減(ポンプ、血糖計チップなど) ▲5億
- 国内プレフィルドシリンジ受託事業の受注期ずれ ▲4億
- 薬価・公定価改定の影響 ▲2億
- 基盤医療器の原価改善効果 +4億
- サーフローV3の原価改善に向けてフィリピン工場生産開始

血液システムカンパニー：厳しい環境下も増収増益

(億円)

	13年度 Q1	14年度 Q1	増減率	為替除く
売上高	215	224	+4%	+1%
事業利益 (率)	41 (19%)	42 (19%)	+3%	+1%

- 欧米の血小板採血の需要は横ばいも価格は下落 ▲2億
- 国内では顧客のITシステム変更等に伴う発注ずれ ▲2億
- 治療アフェシスが海外で二桁成長 +6億
- アジア・中南米で、成分採血装置を中心に売上成長を維持 +5億
- ベトナム工場稼働準備(竣工7月)

14年度Q1 ローンチ済み製品

領域	製品	地域
心臓	新DES(自社開発)	欧 (予定通り)
ペリフェラル	皮下植え込み型 薬液注入システム	日 (予定通り)
アブレーション	腎除神経カテーテル	亜・南米 (予定通り)
	TRI腎除神経カテーテル	亜・南米 (予定通り)
栄養	液体流動食	日 (予定通り)



新DES(Ultimaster)



皮下植え込み型薬液注入システム (DewX Sタイプ)

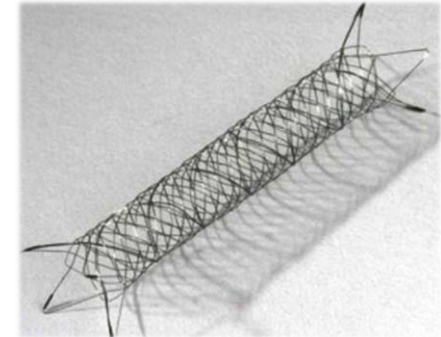


液体流動食(マーメッド)

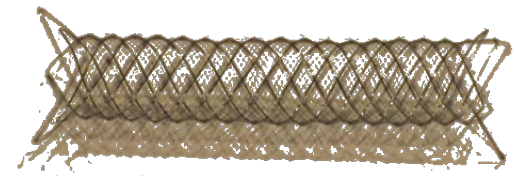
- 胃に入ると半固形に
- 胃食道逆流の低減を期待

14年度Q2-Q4 ローンチ予定の製品

領域	製品	地域
ペリフェラル	バルーン(膝上)	米
	バルーン(膝下)	日欧
	ステント(膝下)	欧
脳	コイルアシスト・ステント	米
	頸動脈ステント	欧
心臓	新PTCAバルーン	欧
血液システム	成分採血装置(血漿)	日
	自動血液製剤システム	日
	血液治療装置 (顆粒球・骨髄幹細胞)	米
輸液システム	閉鎖式輸液ライン	亜
	高機能輸液・ シリンジポンプ	中



コイルアシスト・ステント
(LVIS)



頸動脈ステント
(CASPER)

参考資料

事業別 地域別売上高と伸長率 (Q1)

(億円)

事業 セグメント	日本	海外 計					合計
			欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	118 (-3%)	428 (7%)	164 (6%)	174 (9%)	42 (-4%)	48 (14%)	545 (5%)
うちカテーテル*	91 (-4%)	317 (7%)	129 (7%)	112 (11%)	39 (-3%)	37 (9%)	408 (5%)
ホスピタル	289 (-6%)	91 (0%)	31 (6%)	17 (-19%)	3 (13%)	39 (7%)	380 (-4%)
血液 システム	27 (-5%)	197 (1%)	65 (1%)	93 (1%)	7 (-18%)	32 (7%)	224 (1%)
合計	434 (-5%)	715 (5%)	260 (5%)	284 (4%)	52 (-5%)	119 (10%)	1,149 (1%)

*ニューロバスキュラー事業含む

下段()内は為替影響除く対前年同期伸長率

販管費

(億円)

	13年度Q1	14年度Q1	増減	増減率
人件費	154	169	+15	+10%
販促費	37	37	+0	+1%
物流費	27	27	+0	+1%
償却費	53	59	+6	+11%
その他	90	87	-3	-3%
一般管理費計	361 (32.4%)	379 (33.0%)	+18	+5%
研究開発費	76 (6.9%)	67 (5.8%)	-9	-12%
販管費合計	437 (39.3%)	446 (38.8%)	+9	+2%

()内は対売上高%

販管費

(億円)

	13年度Q1*	14年度Q1	増減	増減率
一般管理費計	371	379	+8	+2%
研究開発費	78	67	-11	-14%
販管費合計	448	446	-3	-1%

* 為替の影響を除いた換算値

四半期の動き

(億円)

	FY13Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	FY14Q1 (4-6月)
売上高	1,111	1,149	1,192	1,221	1,149
粗利益	570 (51.3%)	601 (52.3%)	615 (51.6%)	633 (51.9%)	607 (52.8%)
販管費	437 (39.3%)	430 (37.4%)	437 (36.7%)	463 (37.9%)	446 (38.8%)
営業利益	133 (12.0%)	171 (14.9%)	178 (14.9%)	170 (14.0%)	161 (14.0%)

期中平均	US\$	99円	99円	100円	103円	102円
レート	EUR	129円	131円	137円	141円	140円

粗利益率、販管費率、営業利益率

(%)



粗利益率



販管費率



営業利益率

Q1

Q2

Q3

Q4

Q1

(各四半期の3ヶ月単位)

13年度

14年度

設備投資と研究開発費

(億円)

	15/3期 見通し	Q1 実績	進捗率
設備投資	420	92	22%
償却費*	410	97	24%
研究開発費	310	67	22%

* のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

キャッシュフロー

Q1は法人税納付の影響大

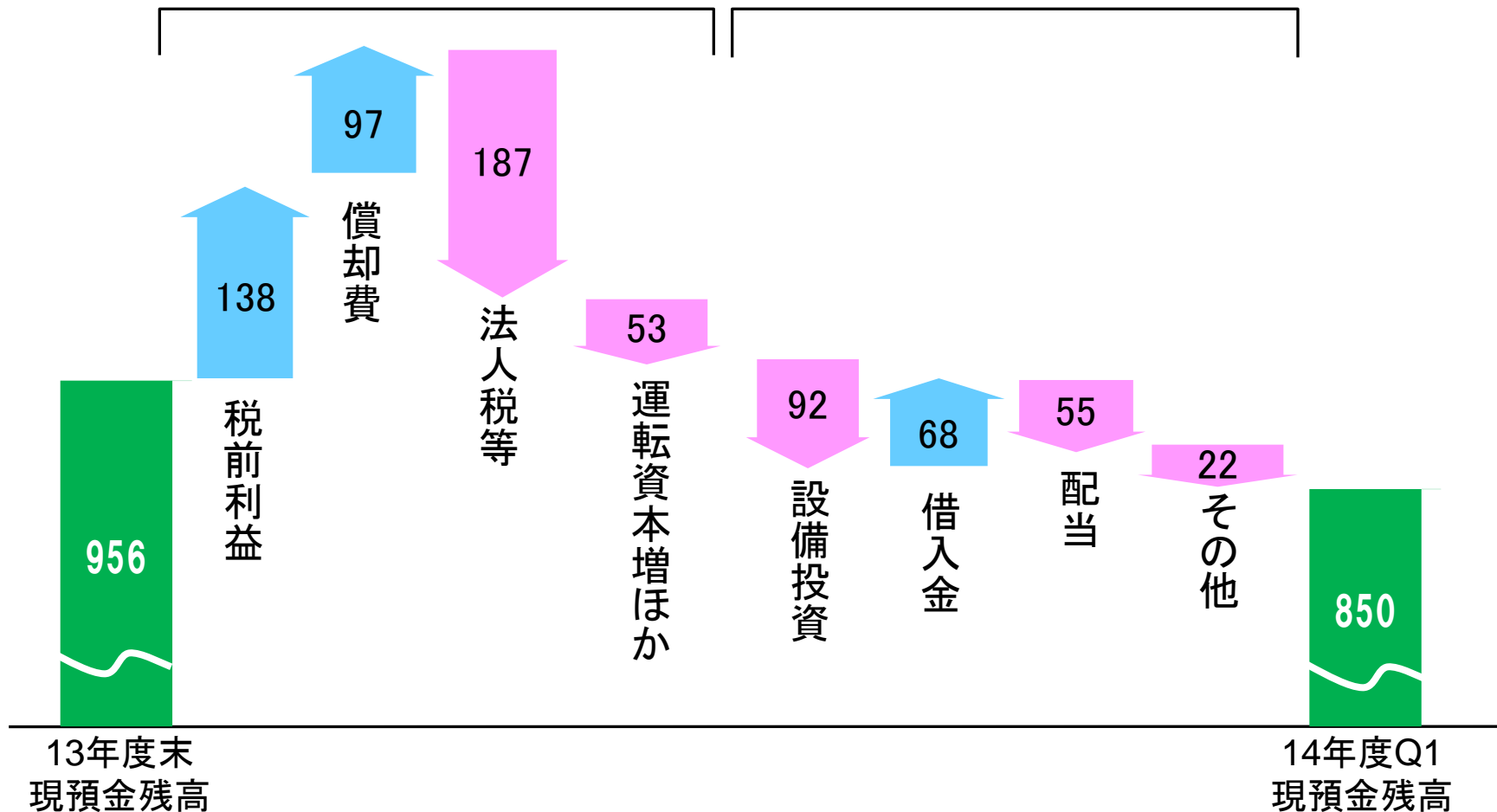
(億円)

営業キャッシュフロー

投資・財務キャッシュフロー

▲5

▲101

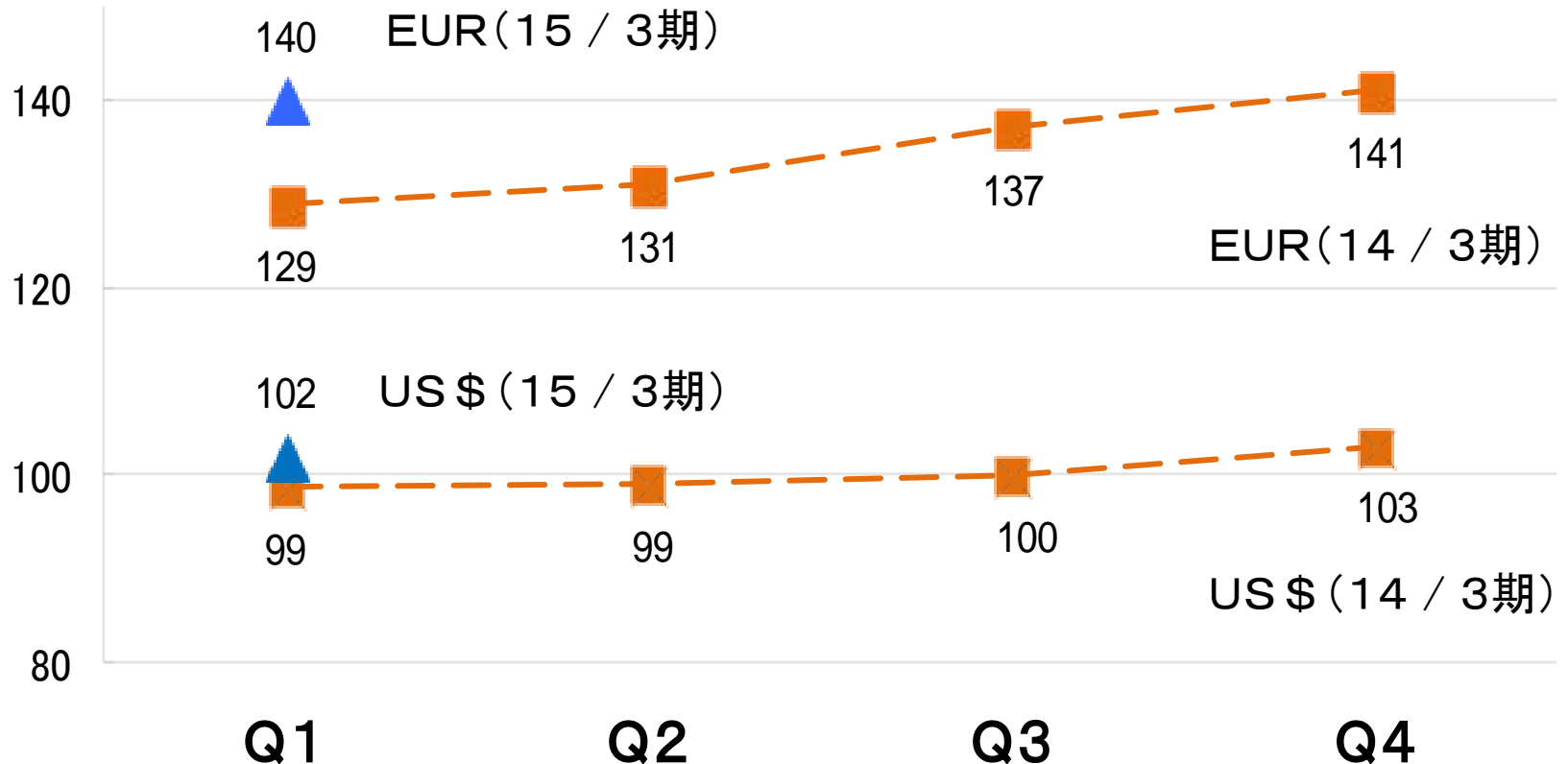


為替感応度

(億円／年)

	ドル	ユーロ
売上高	18	7
営業利益	3	4

四半期平均為替レートの推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。